

金沢市役所ゼロカーボン推進計画2021(改訂版)」の進捗状況（2023年度実績）

1 数値目標の進捗状況

(1) 温室効果ガス総排出量

数値目標：2030年度に2013年度比で60%削減すること。

2023年度の温室効果ガス総排出量は 111,269 t-CO2 で、**2013年度比で19.3%減少**し、**2022年度との比較では、0.7%増加**しました。

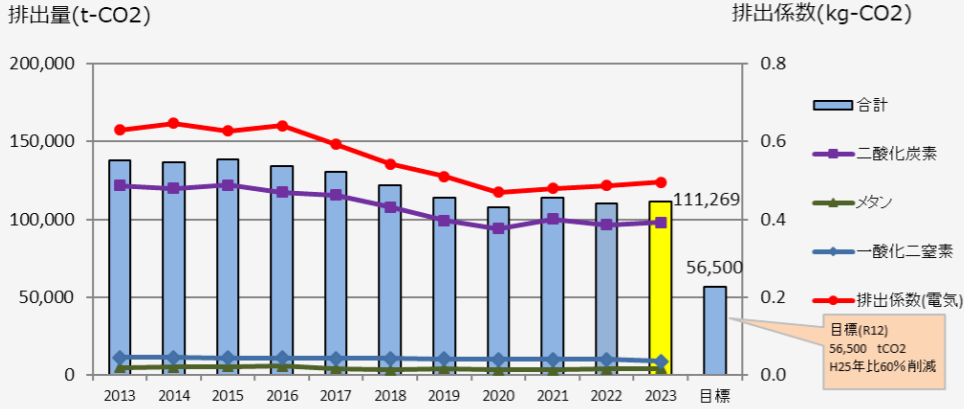
(単位：t-CO2)

項目		2013	2019	2020	2021	2022	2023
二酸化炭素	エネルギー起源	78,463	57,702	54,591	60,379	58,227	56,160
	非エネルギー起源	43,101	41,423	39,564	39,697	38,155	41,916
	計	121,563	99,124	94,154	100,077	96,383	98,076
メタン		4,998	4,311	3,502	3,417	4,047	4,304
一酸化二窒素		11,347	10,349	10,062	10,076	10,026	8,881
ハイドロフルオロカーボン		8.6	9.0	8.9	8.6	8.6	7.9
合計		137,917	113,794	107,727	113,578	110,464	111,269
		前年比	—	▲ 5.3 %	5.4 %	▲ 2.7 %	0.7 %
		基準年（H25）比	—	▲ 21.9 %	▲ 17.6 %	▲ 19.9 %	▲ 19.3 %

※少数点以下の数字を四捨五入して整数表示しているため、合計値が合わない場合があります（以下同じ）。

※電気の排出係数が告示されたため、確報値となります。なお暫定値からの修正はありません。

※過年度実績について、排出係数の訂正等があり、一部データを修正しています（以下同じ）。



「増減の主な要因」

共通事項（増加）：新規施設の供用開始等により集計対象施設を精査した結果、施設数が増加したため。

非エネルギー起源二酸化炭素（増加）：ごみの焼却に由来する排出量の算出方法に変更があったため。※ごみの焼却量自体に顕著な変化はありませんでした。

(2) エネルギー消費量

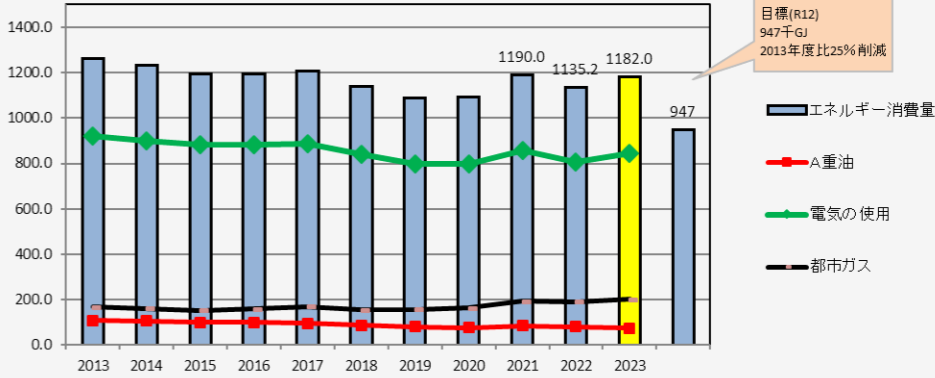
数値目標：2030年度に2013年度比で25%削減すること。

2023年度のエネルギー消費量は、 1,182.0 千GJ で、**2013年度比で6.4%減少**し、**2022年度との比較では、4.1%増加**しました。

(単位：千GJ)

項目		単位熱量	2013	2019	2020	2021	2022	2023
燃料の使用	ガソリン	34.6 MJ/L	11.8	9.8	9.5	9.4	9.2	9.3
	灯油	36.7 MJ/L	22.5	15.8	17.6	17.1	16.5	17.4
	軽油	37.7 MJ/L	20.3	14.8	14.5	14.3	15.5	13.7
	A重油	39.1 MJ/L	106.7	80.1	76.4	84.0	79.3	74.8
	液化石油ガス（LPG）	50.8 MJ/kg	14.6	13.5	13.7	17.2	18.1	18.7
	都市ガス	44.4 MJ/m3	166.0	155.8	162.5	191.9	191.5	202.0
電気の使用		9.97 MJ/kWh	921.4	798.5	798.6	856.2	805.2	846.1
合計			1,263.4	1,088.3	1,092.8	1,190.0	1,135.2	1,182.0
		前年比	—	—	0.4 %	8.9 %	▲ 4.6 %	4.1 %
		基準年（H25）比	—	—	▲ 13.5 %	▲ 5.8 %	▲ 10.1 %	▲ 6.4 %

エネルギー消費量(千GJ)



2 施策の効果

(1) 環境価値が高い電力の活用 関連：重点施策②「環境価値の高い電力の市有施設での利用を拡大します。」

本市では、2022年度から東西環境エネルギーセンターで発電した電気(ごみ発電)や市内卒FIT電力(再エネ)など、環境価値が高い電気の使用を始めています。これらの電気は、使用に伴いCO2が発生しないため、エネルギー起源CO2の排出量を削減できます。

2023年度は、対象施設・期間を拡充し、**新たに約5,920MWhを“環境価値が高い電気”に切り替えました。**

これは年間の排出量で、**約2,940 t-CO2、エネルギー起源CO2の約 5 %を削減**したことに相当します。

(2) LEDの導入 関連：重点施策③「LED 照明器具を未設置の市有施設に 90,000 台導入します。」

2023年度には、**合計12,323台のLEDを導入**しました。特にエネルギー消費効率が悪く、点灯時間の長い道路灯、公園灯がLED化されたため、これらの照明の電気使用量が**2022年度との比較で約2,000MWh削減**されました。

これは年間の排出量で、**約1,000 t-CO2、エネルギー起源CO2の約1.7%を削減**したことに相当します。

LEDの導入などの省エネ事業は、ランニングコストをかけずにエネルギー消費量を削減することができるため、効率的に温室効果ガス総排出量を削減することができます。

(3) その他

・15台の公用車を次世代自動車に転換しました。

・2基の太陽光発電設備の設置に着手しました（令和6年度完成、供用開始済）。

【参考】 2022年度実績との比較

2022年度実績との比較では、温室効果ガス総排出量が増加しています。増減の主な要因にあるとおり、単純な比較ができないことから、2022年度実績の算定方法に併せた温暖化係数、算定対象施設にて2023年度実績（参考値）を下表のとおり算定しました。

この参考値では、2022年度実績との比較において、**温室効果ガス総排出量は2.0%の減少、エネルギー消費量は2.4%の減少**となっており、施策の効果が順調に反映されていることが分かります。ただし、いずれも目標値には及ばないことから、目標達成に向けては、これまでの施策を継続するだけでなく、新たな施策の実現に向けて検討を進めていく必要があります。

温室効果ガス総排出量

(単位：t-CO2)

項目		2013	2022	2023
二酸化炭素	エネルギー起源	78,463	58,227	52,501
	非エネルギー起源	43,101	38,155	41,916
	計	121,563	96,383	94,417
メタン		4,998	4,047	3,843
一酸化二窒素		11,347	10,026	9,987
ハイドロフルオロカーボン		8.6	8.6	8.7
合計		137,917	110,464	108,255
		前年比	—	▲ 2.0 %
		基準年（H25）比	—	▲ 21.5 %

エネルギー消費量

(単位：千GJ)

項目		2013	2022	2023
燃料の使用	ガソリン	11.8	9.2	9.3
	灯油	22.5	16.5	17.4
	軽油	20.3	15.5	13.7
	A重油	106.7	79.3	74.8
	液化石油ガス（LPG）	14.6	18.1	18.7
	都市ガス	166.0	191.5	186.0
電気の使用		921.4	805.2	788.5
合計		1,263.4	1,135.2	1,108.5
		前年比	—	▲ 2.4 %
		基準年（H25）比	—	▲ 12.3 %